

おぢや



市議会だより

OJIYA CITY ASSEMBLY

NO. 49

20.7.25

編集発行
小千谷市議会

☎83-3505



130年の長きにわたり歴史に幕をおろした若栃小学校

若栃小学校のあゆみ

明治7年2月第六中学区第一番小学校若椽校として若栃の正応寺を借館し開校創立された。

その後、若栃の高台に校舎が建築された。昭和30年までに、1,297名の卒業生を送り出し、同年、市町村合併により小千谷市立若栃小学校となった。昭和44年、新校舎建設にあたり、校舎隣接の用地確保の計画もでたが実現出来ず、現在の山新田に鉄筋3階建校舎を新築、竣工となった。

美しい自然と温かい人達に恵まれたこの若栃小学校は閉校まで、1,898名の児童が学び、数々の栄光を残し平成17年3月、長き130年の幕を閉じた。

現在残されている建物を地域住民は、医療関係等での再利用をしてほしいと望んでいる。

- 定例会議決結果 …………… P 2
- 常任委員会報告 …… P 2～3
- 一般質問 …………… P 3～6
- 雪あかり …………… P 6

—主な掲載内容—

平成二十年小千谷市議会 第二回定例会 議決結果

条例の制定

- 小千谷市民学習センター条例の制定 (起立多数)
- 小千谷市災害対策基金条例の制定 (起立多数)

予算の補正

- 平成二十年度小千谷市一般会計補正予算(第一号) (起立多数)
- 平成二十年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第二号) (全会一致)
- 平成二十年度小千谷市老人保健特別会計補正予算(第一号) (全会一致)

その他

- 専決処分(小千谷市手数料条例の一部を改正する条例) (全会一致)
- 専決処分(小千谷市税条例の一部を改正する条例) (起立多数)
- 専決処分(小千谷市都市計画税条例の一部を改正する条例) (全会一致)
- 専決処分(小千谷市国民健康保険条例の一部を改正する

- 条例 (起立多数)
- 専決処分(平成二十年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算第一号) (起立多数)
- 小千谷市固定資産評価審査委員会委員の選任(起立全員)
- 小千谷市農業委員会委員の選任による委員の推薦 (全会一致)

- 和解及び損害賠償の額の決定 (全会一致)
- 小千谷市の公の施設(市民学習センター)の指定管理者の指定 (起立多数)
- 契約の締結(小千谷小学校)建築主体) 改築工事) (全会一致)
- 契約の締結(小千谷小学校)電気設備) 改築工事) (起立多数)
- 契約の締結(小千谷小学校)衛生設備) 改築工事) (全会一致)
- 契約の締結(小千谷小学校)空調設備) 改築工事) (全会一致)

- 後期高齢者医療制度の中止・撤回の意見書を国に提出することを求める請願(起立少数)
- へき地級地見直しに関する請願 (起立少数)
- 三十人以下学級の実現、義務教育費国庫負担制度の堅持をはじめとする教育予算の充実を求める請願 (全会一致)

発議

- 閉会中の継続調査の申し出 (全会一致)
- 三十人以下学級の実現、義務教育費国庫負担制度の国負担率二分の一還元をはじめとする教育予算の充実を求める意見書 (起立全員)

常任委員会報告

総務文教委員会

本委員会に付託された案件は議案五件、請願二件でありました。議案の審査の経過並びにその結果について報告致します。

- 議案第五十七号、小千谷市民学習センター条例の制定について
- 議案第六十三号、市民学習センターの指定管理者の指定について申し上げます。本案は、旧信濃川テクノアカデミーの施設に市民学習センターを設置するための条例を制定したい及び指定管理者を指定したいとするものです。委員会では、主たる質疑として設置の目的、必要性、市民合意、指定管理者導入の適合性、文化施設建設基金との関係、指定管理者の人員体制、指数による評価制度の導入等質疑が交わされ、意見として従業員への処遇、利用料金の見直しは

柔軟に、市民の拠点となる運営を期待する。としたものがありました。

- 議案第五十八号、小千谷市災害対策基金条例の制定について、本案は、中越大震災義援金配分委員会から、災害対策基金として市に配分がされることとなつたため基金を設置し積み立てるため条例を制定したいとするものです。基金設置の目的、活用についての明文化、多方面への運用、総務費災害救助費との関係、次年度以降の積立の考え等質疑が交わされ、意見として全国各地への市民活動、支援事業への活用を可能としてほしい。

自動車事故賠償金の確定及び緊急を要する経費等について予算補正したいとするものです。歳入歳出それぞれ二億四千七百七十三万九千円を追加し、総額をそれぞれ百七十三億七百七十三万九千円とするものです。

なお、本案は、三常任委員会の連合審査会で審査いたしました。委員会では討論において、道路橋りょう単独事業で、当初予算を上回る補正がされた。当初予算に計上しながら住民の安定、安寧を図るべきである。としたものがありました。採決の結果、起立多数で原案のとおり可決すべきものと決しました。

- 請願第二号、へき地級地の維持・改善等を求める意見書については起立少数で不採択でした。
- 請願第三号、三十人以下学級の実現、義務教育費国庫負担制度の堅持をはじめとする教育予算の充実を求める意見書については起立全員で採択致しました。

社会土木委員会

補正予算の審査で安全運行に関する指導、生徒の怪我の有無賠償額の内訳、職員の処分内容等、質疑が交わされました。

- 議案第五十九号、小千谷市一般会計補正予算(第一号)について、本案は、配分を受けた義援金の災害対策基金への積立、

本委員会に付託されました案件は議案二件及び請願一件でありました。慎重に審査をし、議案二件については、原案のとおり可決すべきものと決しました。請願については賛成起立者はなく、不採択と決しました。

○議案第六十号、平成二十年度小千谷市の国民健康保険特別会計補正予算(第二号)については、老人保健拠出金確定に伴う負担金の増額であり、追加される補正額は、五百三十三万円であります。

○議案第六十一号、平成二十年度小千谷市老人保健特別会計補正予算(第一号)については、平成十九年度国県支出金等の精算に伴う過年度分返還金の計上であり、追加される補正額は、二千五百五十七万六千円であります。

○請願第一号は、後期高齢者医療制度の中止・撤回の意見書を国に提出することを求める請願についてであります。

市政の内容を聞く 一般質問

市道の国道昇格と歩道整備 ふるさと納税

風間 順一 議員

一、市道の国道昇格について

質問一 昭和六十一年三月車道部分の供用開始から二十二年が経過する。市道城川八号線、西小千谷環状線の国道昇格に向けた現在の作業の進捗状況はどうか。

答弁 二十年度中に国道に編入することで県との協議が整った。昇格に向け必要な図面等の作成業務をコンサルタントに委託し精力的に進めている。

質問二 国道昇格に伴い代替路線として市が引継ぐ路線はどうか。

答弁 国道一七号A線であり、具体的には山本交差点から本町交差点までと元町交差点から千谷川四丁目交差点までとなる。関係町内への説明会を開催する。

質問三 歩道等の整備については。

答弁 国道昇格後早期に歩道整備事業に着手して頂くよう県に強く働きかけていきたい。

質問四 平成十一年ジャスコ前での交通量調査(二十四時間)では一万百六十二台であったが、最近の交通量調査結果はどうか。

答弁 平成十九年十月吉運堂小

千谷店前で午前七時から午後七時までの十二時間の通行車両は一万八百七台であり、夜間も加えるとかかなり増加していると思う。

二、ふるさと納税への取組は

質問一 ふるさと納税制度がスタートして一ヶ月余りが過ぎた。県はインターネットで決済できるようにした。津南町、十日町市は基金を設置したが当市の取組について伺いたい。

答弁 市税条例を改正するとともに、取組について具体的な検討を行っている。寄付金については新たな基金を設置して積み立て、事業に適切に配分し最終的にその用途を寄付者に明らかにしていきたい。

小千谷市復興検証と谷井市政について

大平 貢 議員

質問一 市長は十八年十一月に立候補の際、復興計画を確実に実行、子育て支援の充実、高齢者が活躍できる社会、農・工・商業の発展を公約に掲げた。今年が経過したので検証をまとめたい。その中の市民アンケートでは、子育て環境の整備と、若者の定着支援に厳しい評価だったが、市長の所見は。

答弁 真摯に受け止める。アンケート実施時期もあって、二十年度の新規事業の評価が含まれていないと理解。不妊治療費助成、妊婦健康診査拡充、就業者定住促進家賃補助など新規政策を導入してきたが更に努力する。

質問二 新産業の創造、商店街の活性化、販路拡大、特区の活用などが厳しい評価を受けているが、市民は経済界出身の市長に期待が大。市長の所見を伺う。

答弁 鉄工電子協同組合のテクノ小千谷名匠塾や東小千谷夢あふれるまちづくり協議会等のように関係者が積極的に取り組むことを期待。市は地元企業の育成を基本に復興に取り組む。

質問及び答弁三、四は省略。

質問五 市勢を維持・発展させるには産業に活力あるまち小千谷が理想。起業や新商品開発・新分野挑戦の支援、観光や会議の誘致、企業誘致、公共事業推進などが重要。市長から先頭に立つての推進を望む。所見は。

答弁 少子化対策、若者定着、高齢者の活性化、その他多くの問題解決を突き詰めて行くことと産業振興対策が重要ポイントの一つ。テクノ小千谷名匠塾支援、企業立地の促進、産学交流促進、観光資源利用促進、中心市街地活性化など産業政策を推進します。

体育館解体工事におけるアスベスト処理

川上 直栄 議員

五月に行われた旧市民体育館の解体工事中に近隣住民や小千谷小学校児童の家族から不安の声がありましたので、そうした不安を取り除くと共に今後の類似工事の教訓とすべきと考え次の四点について質問しました。

質問 アスベスト含有建材が使用されているのが分かったのはどの時点か。

答弁 五月九日に提出された施工計画書により、アスベスト含有の可能性のある建材が二種類判明した。

質問 レベル三以下の建材しか使用されていなかったとの説明を裏付けるのは何か。

答弁 二種類は、いずれも成形板で石綿障害予防規則に基づく作業はレベル三とされている。

質問 飛散の恐れはなく適正に処理されているとの説明の根拠は何か。

答弁 現場視察と完了写真により適正だったと判断している。小出労働基準監督署、新潟県の立入検査においても特に問題はなかった。

質問 心配を払拭するために説得力のある形で説明する必要があるのではないか。

答弁 今回、確認された二種類の建材は環境省の通達等では「非飛散性アスベスト廃棄物」と分類されている。飛散性アスベストを含む建物の解体をする場合は、近隣住民に十分説明する。

国保税の助成を求め、その他

風間 健一 議員

質問 市長の後期高齢者医療制度に対する考えは？

答弁 必要な制度と思っているが、見直しがされているので、その結果を見たい。

質問 高齢社会が進むなか、介護・障害者福祉の増員が必要だ。厚労省は事業所の経営実態などを調べており、市も事業所に対する調査・ヒアリングを行い国に意見を上げる必要があると思うが？

答弁 市独自の調査は行わず国の調査状況と推移を見守りたい。

質問 介護・福祉に市独自の財政支援をする必要があると思うが？

答弁 市独自の財政支援は行わない。

質問 国は妊産婦健診の「公費負担は十四回ほどが望ましい」とする通知を出した。市でも十四回まで無料にする必要があると思うが？

答弁 検討する。

質問 小千谷市の財政に関する基金は三十六億円ほどあり二十市のなかで一番目。地方債は少ないほうから三番目だ。一般会計から繰り入れて国保税の減免をして頂きたい。

答弁 国保会計は独立採算制だ。新たに一般会計から繰り入れて負担軽減措置はとらない。

質問 中越大震災義援金一億六千万円が一般会計に災害対策基金積立金として計上されている。災害対策基金積立金として流用することは義援金の理念に反し、道義上問題だ。義援金は寄託者の意思に従って速やかに適正かつ公平に被災者に配分して頂きたい。

小千谷市の環境施策等について

佐藤 隆一 議員

小千谷市の環境基本計画、地球温暖化対策実行計画は庁内事務、事業者、市民の意識啓発中心で、二酸化炭素排出抑制の仕組みづくり、政策誘導が不十分。

質問 ①太陽光発電、風力発電の設置状況。②県内他市町村の

設置状況と補助制度。③小千谷市の補助制度創設する考えはないか。

答弁 ①把握していない。②県内三千五十三件設置され、四市に補助制度ある。③考えていない。

再質問 国の方針はブレるが新エネルギー利用は今後必要では

答弁 市は省エネ対策中心に。

質問 ①堆肥センター需要多くの生産間に合わない。学校給食への拡大は？②多量ゴミ排出事業者への指導実績。

③不法投棄ゴミ原状回復モデル事業の実績。



④民間リサイクル事業の実態把握。

答弁 ①現状で十分であり拡大しない、②指導の実績なし。③毎年一〜二箇所、今年一箇所実施した。④現状把握していない。

質問 ①医療費増大は終末期医療との指摘に対する見解。②前年緑内障で精検指導された受診者、今年メタボ健診で「国の指導」と詳細健診から外されているが。

答弁 ①在宅望むかは本人の希望したい。健康で幸せな生活上目指すことが増大抑える。②

動脈硬化の発見を目的とした健診。

質問 後期高齢者保険料は低所得層の負担重いのではないか？

答弁 子供同居世帯二百一万、四百万年金受給者増額だが、他のケースでは減額となる。

質問 市内小学校図書充足率小学校五三・八%、中学校一校未達成。①現状どう考えるか、②専任図書館司書配置すべき。

答弁 ①全体としては充足している、②兼務であり県に要望する。

自立と広域事務組合の今後

駒井富士夫 議員

一、合併促進の動きに市長の見解

質問 総務省の定住自立圏構想研究会の最終報告書によれば、少子高齢化や厳しい財政事情から「衰退の淵にある」と指摘、すべての市町村にフルセットの生活機能を整備することは困難として、地方への政策を「集約とネットワーク」の考え方で再編成すべきと説いている。

自民党では全国幾つかのブロックに分ける道州制を導入しよう」と議論を高めています。この現状のなか当市は四万人を割る人口減ですが、どのように考える

のか市長に質します。

答弁 すでに合併された市町村の状況を観察分析し、一度合併したら後戻りは絶対できないため、それら結果をみて判断しても遅くない。

二、広域事務組合の今後

質問 川口町は長岡市との合併を選択して、合併にむけて協議中でありますが、広域事務組合の今後の運営は。

(イ)小千谷市単独

(ロ)川口地区は小千谷市に委託

(ハ)長岡市広域事務組合に編入の三通りが考えられます。私は衛生部門のこれからの考えた時、資源リサイクル型が必須となり巨費を投入しなければなりません。国、県も広域化を進めておるところですので、(ニ)長岡市広域事務組合への編入が必然だと考えます。相手のある話として長岡市の考えも聞かなければなりません。小千谷市として明確な方向を示す時だと考えます。

答弁 循環型社会の形成を一層進めるため、市としては、長岡市との連携の可能な携いについて、情報交換を進めたい。



小千谷市の医療(特に耳鼻科診療)についてと医師不足による小千谷の医療崩壊の危惧について

吉崎 進 議員

質問 現在小千谷市内の耳鼻科診療の現況について私見を述べ、市長がどのように考えるかを伺う。小千谷総合病院は四月より週三回、魚沼病院は週二回それぞれ非常勤医師が午前又は午後診療している。今年の学校の検査は、かつて市内で耳鼻科を開業されていた医師が行って下さった。このような中で、現在の小千谷市内の耳鼻科の診療は対応できると私は思うが、医師不足の現状で、もし両病院で耳鼻科の診療ができなくなった場合、結局長岡に行かざるを得なくなる。長岡の三病院の耳鼻科もすぐく混んでいる。そこで、当面現状を維持することが今後、状況が改善されることになると私は思う。市長、医師会を始め、医療関係者が精一杯努力していることを私は理解しているが、市長はどのように考えているのか。来年の四月からは後期研修医を終了し、第一線で活躍する医師が診療に参加することになるが、まだしばらく医師の絶対数が足りない状態は続く。このままでは小千谷の医療は崩壊するのではないかと私は危惧を抱

くが、この危惧が私の取り越し苦労になることを願っている。

答弁 現在、小千谷市魚沼市川口町医師会では東京医療センターから研修医の受入れを積極的に進めて、医師確保への努力をいただいております。市としても研修に対する協力や事業費の補助を行っている。また、市民が安心できる医療体制を目指し、医師会、小千谷総合病院、魚沼病院及び市で地域医療体制についての懇談会を開催し、医師不足や休日救急診療等について検討を重ねているところである。

人口減少問題、人口動態変化に向けた自治体経営についてふるさと納税の推進について

宮崎 悦男 議員

質問一 当市の人口は昭和三十一年の五万二千二百四十二人をピークに年々減少、本年初の四万人割れとなった。急激な人口の減少は産業経済、福祉、医療、社会保障や自治体経営硬直化等に大きく影響してくる。①人口問題研究所は平成二十七年を三万七千六百五十五人と推計、当市総合計画の平成二十七年目標設定は四万人としているが、設定に無理はないか。②平成三十二年人口が研究所推計通り三万五千一人となった場合、税収、産業

経済への影響は。③アセットマネジメントの必要性。④人口減少対策プロジェクト等長期的、総合的な対策が必要では。

答弁 ①人口四万人は目標設定値として無理の無い数値。②市民税は一四・七％減少、一人当たりの税額は二・八％減少。他の税においても減少。③アセットマネジメントは必要と考える。資産価値の最大化や業務の効率化を図れるよう工夫していく。④プロジェクトは考えていない。

再質問 もっと人口減少の構造を分析し、未来を見据えた横断的対策を打つべき。

再答弁 より効果的な対策を検討する。

質問二 ①ふるさと納税の募集方法は、②予算上の扱いは、③寄付の使い道について

答弁 ①市ホームページに専用サイトを開設、市報小千谷に掲載。また、本市ネットワークを活用する方法も検討。②新たに基金を設置。③いくつかの項目を設け、その中から寄付者を選択していただく方法を検討。

学校施設の耐震化など四点

安達 稔 議員

質問一 「学校施設の耐震化について」中国・四川大地震で多くの学校が倒壊したことを踏まえ、地震防災措置法が改正された。二年間の時限立法で財政措置を大幅に拡充している。また、耐震診断の結果を公表することを義務付けている。当市には耐震指標に満たないものが七校ある。この機会に安全性を確保すべき。

答弁 七校七棟については、平成二十二年度末までに補強工事を実施する。市内の全ての小中学校の診断結果・耐震化計画を六月二十五日の市報に掲載する。

質問二 「妊婦健診無料化の拡大について」厚生労働省によると安全な出産のためには、十回程度の受診が望ましい。家計の負担を軽くするため二子以降の公費助成制度を拡大すべき。

答弁 受診を勧奨することが現在の行政の役割と考える。

質問三 「火災警報器について」統計によると火災による死者数は警報器が設置されている場合は三分の一に減少している。既存住宅は本年六月一日から自治体が義務化の条例を定めるとしている。条例化の予定と普及は。

答弁 小千谷地域広域事務組合で処理する。機会をとらえての広報活動に勤める。

質問四 「新型インフルエンザ対策について」当市の場合、入院先はどこになるのか。厚生省は四分の一が感染の恐れとしているが、どう対応するのか。自宅療養として場合、タミフルなどは誰が配布するのか。

答弁 長岡赤十字病院において治療を行うことになる。大流行した場合は自宅での対応も考えられる。大流行になったときは、薬の配布は中止され、治療薬として医療機関で使用される。

新産業団地整備と小中学校教育の事

西澤 代三 議員

質問一 量から質への転換である地域循環型の産業振興が課題視されている。①市内桜町・山谷・坪野両地域に調査中の新産業団地候補地の規模は。②企業アンケート結果の公表は。③新たな優遇措置は。④県内外企業誘致の対応は。⑤東地区への誘致。

答弁 ①環境保全を考慮して緩衝地帯を選定、両新田地区三十ヘクタール、山谷・坪野地区十七ヘクタールを可能と見えています。②八十八事業所を対象にし

ました。非公開を前提としました。③優遇制度の見直しを検討したいと思います。④県内外も含めて作業を進めています。⑤地元企業を優先したいと思いますが、大部分が住居地域で、工業地域の新たな設定は難しい状況です。

質問二

小中学校の教育について。①新学習指導要領では実施を前倒しする旨を公表した。教科書もない学習もあるとのこと。②授業時間大幅増加とのこと。③文部科学省は新学習指導要領の教育理念は現要領と変わらない旨を強調しているが、脱ゆとり教育への傾向が指摘されている。



教育長答弁

①新同要領は九月に県の説明会で具体的にになります。市教育研究会と協力して準備を行っており、混乱のないようにしたいと思います。②学校事務の効率化や特別支援教育支援員の拡充等を促して、文部科学省の方針に合わせて教育環境の一層の整備を図って行きます。③新学習指導要領の趣旨にそって「心豊かにたくましく生きる子ども」の育成を目指しています。

議会日誌 4月～6月

- 3日 本事業等を確実に推進して、これまでの教育活動を、より充実させたいと考えています。
- 10日 本市議会議長会春季定期総会（田上町）
- 16日 議会報編集委員会
- 23日 北信越市議会議長会評議員会（富山市）
- 24日 北信越市議会議長会定期総会（富山市）
- 25日 総務文教委員協議会
- 27日 ふれあいの里開村式
- 9日 議会運営委員会
- 12日 東京都渋谷区議会行政視察に来市
- 14日 上越新幹線活性化同盟会総会（新潟市）
- 22日 県特別豪雪地帯市町村議会協議会理事会・総会（小千谷市）
- 28日 全国市議会議長会定期総会（東京都）
- 29日 市議会議員共済会代議員会（東京都）
- 30日 合同市内企業見学会
- 3日 議会運営委員会
- 10日 第二回定例会（本会議）
- 11日 三常任委員会連合審査会
- 12日 総務文教委員協議会
- 12日 社会土木委員協議会
- 13日 社会土木委員協議会
- 13日 産業経済委員協議会
- 13日 産業経済委員カスホルダー耐震化工事見学
- 24日 議会運営委員会
- 24日 本会議（第二日）
- 25日 本会議（第三日）
- 27日 議会報編集委員会
- 27日 議会運営委員会
- 27日 本会議（第四日）
- 議員全員協議会
- 議員クラブ会



32



木村 茂穂
（小千谷商工会 議所専務理事）

六月議会中はどんよりした曇り空が多く、梅雨明け後の白い雲と抜けるような夏空が待ち遠しい。

そんな中、市議会本会議が光ファイバーのトンネルを通過して議場の外に出た。議会史のページを飾る画期的な事業の成功をお祝い申し上げます。西暦二〇〇〇年にEジャパン構想が景気対策とIT技術立国の目玉として登場し、電子政府・電子自治体の活字が予算書を賑わした。それから八年、住基ネット、電子納税などが先行し、普及率はまだ一桁か二桁の前半であるが、試行錯誤しながら着実に前進している。担当者の努力を思うと涙ぐましくも頼もしい。六月二十四日・二十五日の一般質問をネット傍聴させていただいた。一番華やかな晴れの場である。議場に足を運ぶことなく演壇を真正面から見ることが出来る。議場全体を鳥瞰することもできる。音声も明瞭に聞き取れる。IT社会の恩恵を実感できた。ただ、佳境のところ德音声が突然途切れることは無しで欲しい。ネットに繋がることは世界に繋がることである。小千谷の熱い念いがここから発信され、ふるさと納税を申し出る人が増えればなどという夏の夢話に飛躍してしまいたいのである。

編集後記

梅雨に入った六月は雨が少なく空梅雨かと思われました。七月に入り、ようやく梅雨らしい天候になりました。一年間の降雨量は毎年大きく変わることはないといわれております。一時は、また梅雨末期に集中豪雨があるのでと心配しましたが、この状態で推移すれば大丈夫のような気がいたします。しかし、地球温暖化の影響で、今後の天候がどのようになるか予想がつかないところがあります。このまま梅雨明けしてくれることを祈らずにはいられません。二荒様の祭りが始まりました。今後、市内各地で夏祭り、納涼祭が行われます。八月二十二日からの「おぢやまつり」に今年は今まで以上の万灯の参加が予定されているそうです。多くの町内、地域が参加することは、町内、地域の絆がより強くなることに繋がります。いよいよ夏本番を迎えるわけですが、体調にはくれぐれもご留意いただき、楽しい夏にしていただくことを願っております。